

様式(細則 5-2)

令和5年12月6日

浜田市議会議長 笹田 卓 様

議員名 芦谷 英夫

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため(視察 研修)を(実施 受講)したので、その結果を報告します。

記

- | | | | |
|-------------|-------------------------------|--------|--------|
| 1、日 時 | 令和5年11月23日(木・祝) 13時30分～16時30分 | | |
| 2、研修内容 | 新たな土地利用を考える市民シンポジウム | | |
| 3、研修先 | 松江市(市民活動センター) | | |
| 4、調査経費 | 交通費 浜田市⇒松江市(JR往復) | | 6,180円 |
| | | (駐車代金) | 400円 |
| | | 計 | 6,580円 |
| 5、調査研究活動の概要 | 別紙のとおり | | |



新たな土地利用を考える市民シンポジウム

令和5年12月6日

- 1 日 時 令和5年11月23日（木・祝）13時30分～16時30分
- 2 場 所 松江市（市民活動センター）
- 3 内 容 基調講演「これからのまちづくりについて」

国土交通省都市局都市計画課長 鈴木章一郎 氏

パネルディスカッション「新たなチャレンジが生まれる土地の使い方について」

4 概 要

- ① **【基調講演 鈴木課長】** 都市計画区域、区域区分（線引き）制度、開発許可、都市計画制度などについて、その概要、国の考え方などを説明。（松江市は線引き制度廃止の方針）
- ② 都市をとりまく環境変化はめまぐるしく、人口の増加による市街地の拡大、住宅や店舗などの郊外への立地、市街地は拡散したが、人口減少や高齢化に伴い低密度な市街地が形成され、高齢者の大幅増加は、拡大した市街地に多くの高齢者が居住し、拡散した居住者の生活を支えるサービス提供が困難となっている。
- ③ このため生活サービス機能と居住を集約・誘導し人口を集積させる、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの再構築と連動したコンパクトシティが必要となる。コンパクトシティは、生活サービスを維持・集中・集積することでサービス産業の生産性向上、行政コストの縮減と固定資産税の維持などが見込まれる。
- ④ コンパクトシティ、都市の集約化により徒歩や公共交通機関を利用した生活行動範囲が広がり、高齢者の外出機会、市民の歩行量の増加などによる市民の健康増進と医療費の抑制が見込まれる。自動車交通によるCO₂排出量が抑制され環境負荷の低減につながる。
- ⑤ **【パネルディスカッション 細田智久 氏 島根大学総合理工学部教授】** 松江市は線引き制度廃止後の新たな土地利用制度を検討しており、マインドが変わりこれまでとは違うまちづくりが進められ、県庁所在地としての機能、企業の集積、企業の本支店もあり周辺市町を支える都市づくりの役割がある。
- ⑥ **【田中輝美 氏 島根県立大学地域政策学部准教授】** 歴史文化は一朝一夕ではつくられず、街に駅で降りてみたい、寄ってみたい食べてみたい体験してみたいなど、人を誘引する仕掛けが必要。関係人口でつながり、自分だけでなくいろいろな人と連携しそれを定住につなげる。今あるものをいかす発想が重要。空き家は貴重で、すぐ相談できる体制が必要。
- ⑦ **【中尾禎仁 氏（株）まつくる代表取締役社長】** 白潟地区中心市街地では過疎化・高齢化・孤独化が進み、空き家活用に取り組み企業ニーズがある。街のたたずまいを醸し出し、商店街とオフィスの同居で人が居ることで、働く・食べる・集うなどが作り出され、付加価値を高めることで、入ってくる人が増えるまちづくりを進めたい。
- ⑧ **【上定昭仁 松江市長】** これまでは開発できないとのマインドがあったが変えていく必要がある。不昧公とお茶とお菓子をキーワードにまちづくりを進め、見える体験・できる体験を仕掛けたい。公共交通のあり方が問われ、コミュニティバスを運行しており、このネットワーク化、デジタル化を進める必要がある。

5 所 感

- ① 松江市は市街化区域、市街化調整区域を廃止。浜田市は、旧浜田市、旧旭町、旧三隅町の一部が都市計画区域で用途地域のみ指定で、先進例を参考としたまちづくりが必要。
- ② 都市計画と連動したまちづくりについて、県西部としての拠点的功能、中心市街地と都市機能の集積、市域全体での過疎化と高齢化、空き家や商店街の空き店舗対策、生活機能サービスの確保、公共交通ネットワークなどの課題、地域の方向性を見定める必要がある。